

# 甲賀市青少年 育成市民会議 の活動から見えてくるもの



～SNSの利用をきっかけとした犯罪被害～

# 目次

- 1 甲賀市青少年育成市民会議とは
- 2 白ポスト有害図書回収の現状
- 3 SNSの利用をきっかけとした犯罪被害
- 4 まとめ



## 甲賀市青少年育成市民会議とは

約35年間の活動があった5つの町民会議（水口、土山、甲賀、甲南、信楽）から、甲賀市の誕生とともに「甲賀市青少年育成市民会議」を発足し、概ね小学校区を単位とした学区（地区）民会議を立ち上げました。現在は、それぞれ自治振興会等の協力を得ながら、地域に即した活動を展開しています。

青少年が無限の可能性を一層伸長できるよう、一人ひとりの大人が「**大人が変われば、子どもも変わる**」を合言葉に、青少年育成活動の充実、促進に向けた取り組みを展開して、地域や家庭における教育力のさらなる強化や子ども・若者の育成と社会的自立の推進に取り組んでいます。

各地域・地区（学区）の代表者のほか、青少年育成関係団体（保育園・幼稚園、小学校・中学校、高等学校、更生保護女性会、人権擁護委員協議会、民生委員・児童委員協議会連合会、スポーツ少年団、青年会議所、ボーイスカウト、甲賀地区ガールスカウト、PTA連絡協議会、社会教育委員、甲賀保護区保護司会、少年補導委員会など）のご協力のもと、地域ぐるみの青少年の健全な育成活動を推進しています。

甲賀市青少年育成市民会議（事務局：教育委員会事務局社会教育スポーツ課）

## 甲賀市青少年育成市民会議の主な活動（1）

### ◆「地域のおじさん、おばさん運動」の展開

- ・家庭、職場、地域で気軽に声をかけ、あいさつをします
- ・子どもたちの安全を地域の人みんなで推進します  
（かふかつ子 子ども110番の車の設置）



### ◆青少年と大人が一体となった地域活動の推進

- ・甲賀市青少年健全育成市民大会、研修会の開催
- ・青少年育成に関する情報の収集と地区（学区）民会議、青少年関係団体への情報提供

# 甲賀市青少年育成市民会議の主な活動（2）

## ◆非行や問題行動等の防止対策の推進

- ・初発型非行防止等の啓発活動、愛のパトロール
- ・スマートフォンやSNSの適切な利用と、有害情報から青少年を守る活動の推進
- ・白ポスト（有害図書等回収ポスト）の管理



## ◆広報・啓発活動の推進

- ・広報「だいすき！甲賀」の発行

# 活動から見えるもの

## ◆白ポスト設置による有害図書回収について

市内20カ所に設置し、年間3回～4回の回収と処分作業を行っている。新型コロナウイルス感染症流行前は専門部会（育成環境委員会）の委員がコースに分かれ回収活動を行っていたが、コロナ禍では三密防止の観点から複数名で行くこともできず、活動すら市民に知ってもらう機会がなくなった。

【単位：冊・枚・本数】

インターネットの普及により、動画や画像が簡単に手に入るようになったことから、回収件数は減少傾向であったが、**ここ数年は増加傾向にある。**

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
雑誌	679	564	185	225	738	313
DVD	395	255	235	498	451	1,288
ビデオ	44	14	85	24	33	56
その他	44	14	36	38	11	48
合計	1,162	847	541	785	1,233	1,705



# 活動から見えてくるもの

## ◆SNSの利用をきっかけとした犯罪被害について

### 少年の福祉を害する犯罪等の状況

区分 \ 罪種	県健全育成少年条例	児童ポルノ禁止法	覚醒剤取締法	総数	令和3年	増減数
検挙件数	22	46	1	69	61	8
被害少年(人)	27	14	1	42	32	10
未就学						
小学生		3		3	1	2
中学生	15	7		22	9	13
高校生	11	3		14	20	-6
その他学生						
有職少年			1	1	1	
無職少年	1	1		2	1	1

検挙した福祉犯は69件47人で、令和3年に比べ検挙件数は10件増加し、検挙人員は1人減少しました。

罪種別では児童買春・児童ポルノ禁止法違反が最も多く、違反内容は、児童ポルノの所持、製造、児童買春等となっています。次に多いのが県青少年健全育成条例違反で、違反内容は、いん行、わいせつ行為、深夜連れ出し等となっています。

また、**福祉犯の被害者となった少年は42人で、令和3年に比べ10人増加**しました。

**被疑者と被害少年の出会いのきっかけは、スマートフォン等を利用して、SNS等で情報を交換するものがほとんど**でした。

※被害少年数は、統計上、主たる被害しか計上されないため、検挙件数と被害少年の人数は相違します

【出典】滋賀県警察本部 令和4年少年非行のあらまし



# 活動から見えてくるもの

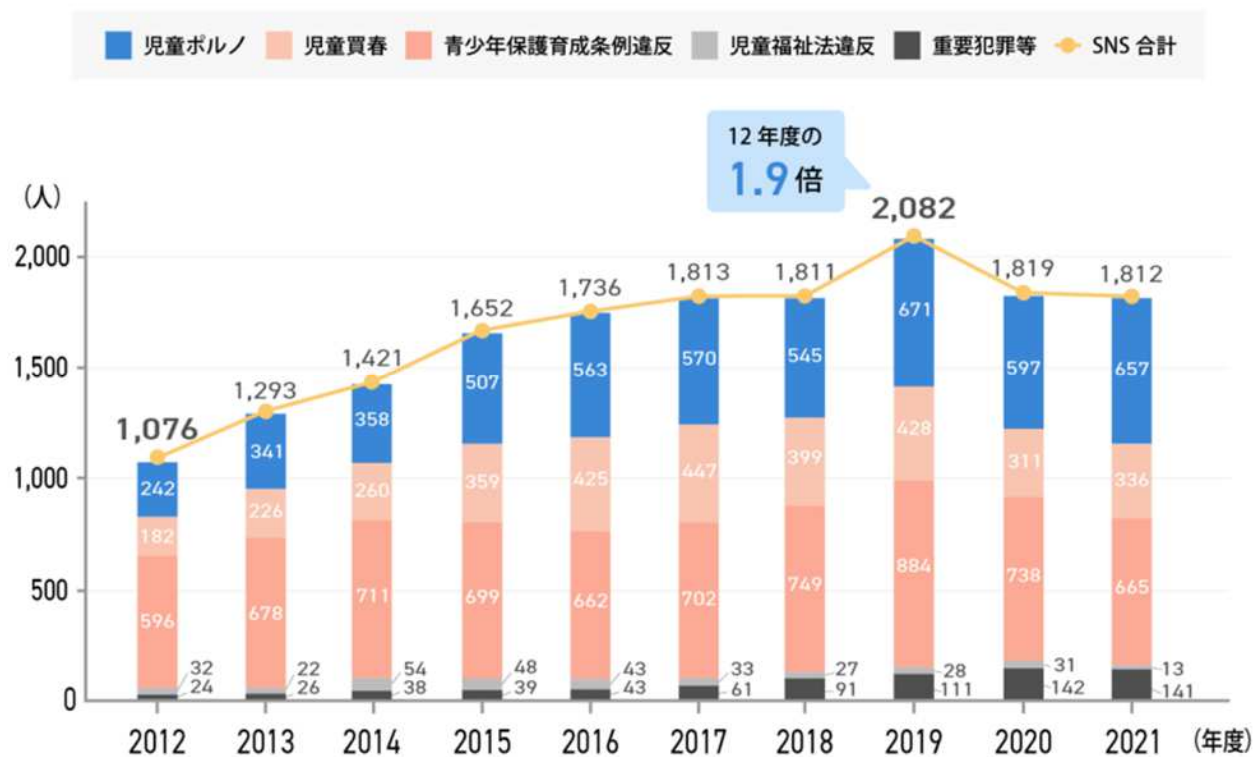
## ◆ SNSの利用をきっかけとした犯罪被害について

2019年は2,082人で2012年の1,076人から**7年ほどで倍増**しています。

新型コロナウイルス感染症が流行したここ数年は減少傾向にあるものの、近年では**高水準のまま**です。

【出典】警察庁「令和3年における少年非行、児童虐待及び子供の性被害の状況」を元に作成されたもの  
(ウェブサイト <https://3keys.jp> 参照)

【SNS に起因する事犯】 罪種別の被害児童数の推移



※ SNS とは、多人数とコミュニケーションを取れるウェブサイト等で、通信ゲームを含む(届出のある出会い系サイトを除く)

# 活動から見えてくるもの

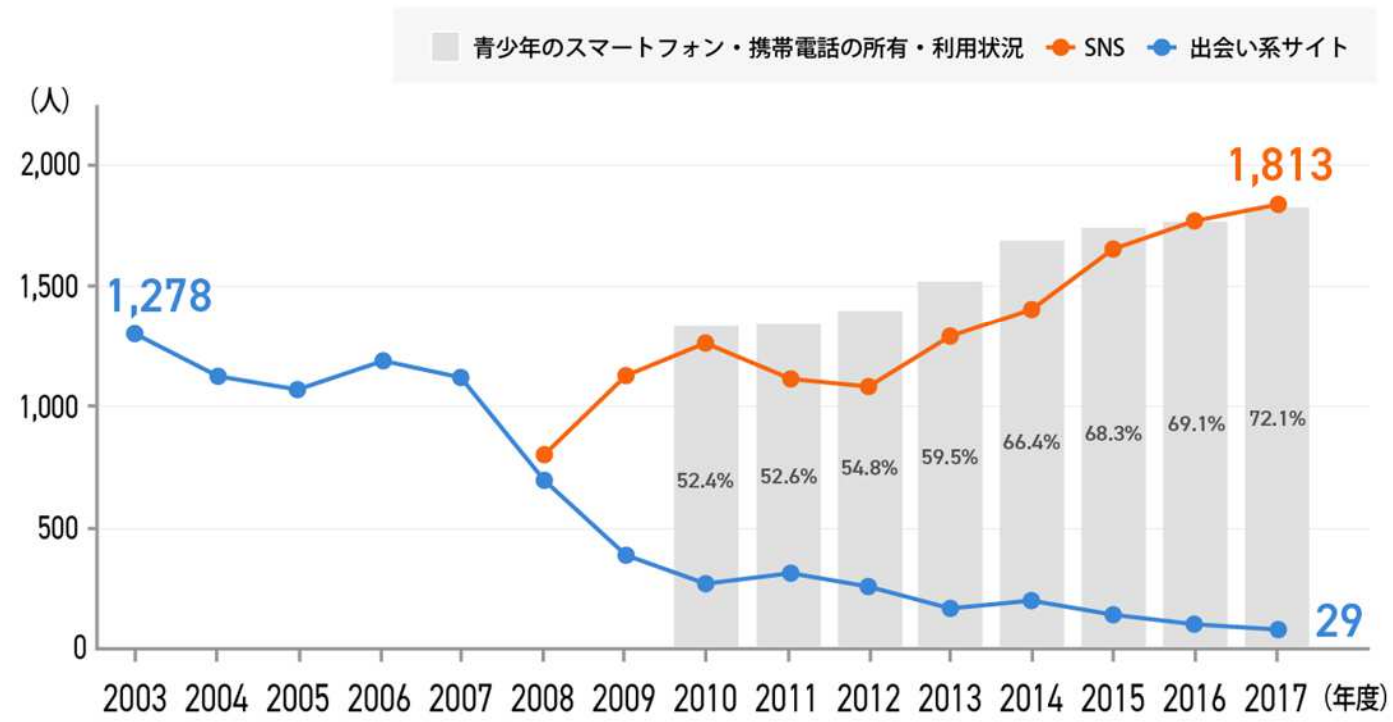
## ◆ SNSの利用をきっかけとした犯罪被害について

以前は「出会い系サイト」を介した子どもの性被害が問題になっていましたが、スマートフォンの普及により **SNSを使った被害が急増**している。

被害児童数の多いサービスはTwitterとInsatagramです。

【出典】警察庁「SNS等に起因する被害児童の現状と対策」を元に作成されたもの  
(ウェブサイト <https://3keys.jp> 参照)

### SNS等に起因する被害児童数の推移



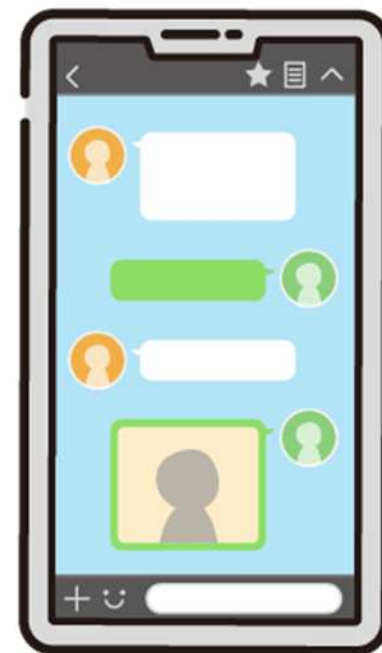
## 活動から見てくるもの

### ◆ SNSの利用をきっかけとした犯罪被害について

- ◎ 多くのSNSは、13歳未満は利用できないよう規制
  - 現実には年齢確認や本人確認も厳格ではないため、13歳未満の子どもでも年齢を偽って登録・利用することは可能
  - **加害者にとっては、顔と名前を出さずに子どもに近づくことができる便利なもの**

- ◎ SNSは今や多くの人にとって、欠かすことのできないコミュニケーションツール
  - フィルタリング機能を使ってSNSの被害を防ぐには**SNS自体の使用を禁止する必要あり**

⇒ 子どもや大人に向けた**ネットリテラシー教育の必要性**を感じています



## まとめ：活動から見えてくるもの から この先へ

保護者や地域の目の届く範囲には限界があり、虐待や貧困、ヤングケアラー・核家族化など様々な理由で大人の保護や見守りの目から抜け落ちてしまっている子どもたちもいるのでは…

### ◆子どもたちが被害に遭うリスクを少しでも減らすために

◎ 子ども自身や保護者にリスクの存在を認識してもらう取り組みを続ける

◎ 関心を持つ地域の大人を増やす取り組みを続ける

★ 団体間の横のつながりを深める

★ 目指すべき姿や環境に対する共通認識を持つ

★ それぞれの強みを活かせる役割分担